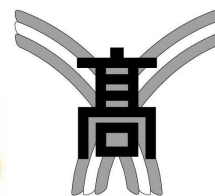


AL道中膝栗毛



【2学期もよろしくお願ひします】

夏休みもあっという間に終わりました。学力向上推進委員会では、2学期に次のような取組を企画しています。色々ご協力をお願いする場面もあるかと思いますが、よろしくお願ひいたします。

○10月中旬～11月ごろ 授業観察月間および全員公開授業

講師以外のすべての先生にA4版の指導案を作成していただき、相互に観察する期間を設けます。

○11月 7日(木) 放課後 第1回研修報告会

主に夏休みの間に出かけた研修の報告会。田中・首藤・中西・桑原各先生より、10分程度ずつ報告。

○11月21日(木) 午後 公開授業研究会

午後から①公開授業、②研究協議、③講演、の3本で実施する研究会。校外からも参加者を募ります。

授業者等	教科・科目	クラス(予定)	授業者
	地歴科(世界史B)	2-6	佐伯先生
	理科(化学基礎)	1-6	首藤先生
	外国語科(コミュニケーション英語Ⅱ)	2-2	中村先生



【協同学習について考えてみます④】

11月21日の公開授業研究会では、岡山大学の高旗浩志先生に助言をいただきます。先生の研究会や講演会に出席したことがあるのですが、次のようなお話がありました。

「その授業のめあて(課題)を提示してください。ここが授業の入口となります。その上で、そのまま授業に入るのではなく、そのめあて(課題)をしっかり吟味させてください。課題の意味を生徒自身が考え、何が解ればいいのか、今の時点で何が解らないのかを全体で共有する工夫を考えてみてください。」

授業の型として「めあての提示」は昨年度より先生方をお願いしているところですが、上記の発言の意図するところは「提示の仕方にも工夫が必要だ」ということだと思います。たとえば、現代文『羅生門』の授業をするとき、どのような「めあて」が適切でしょう。

- ①下人の心情をとらえる。
- ②下人の心情を、変わる前と後を比較して考えることができる。
- ③全員が、下人の心情がどう変わったか、その前後の違いを説明できる。

①よりも②の方が具体的、さらに③になると「全員が」という協同学習のゴールが示されるとともに「説明できる」という「見えるゴール」が示されています。つまり③のようなめあてであれば、何ができるようになればいいのか、今の段階で何が分からないのかを明確につかむことができます。委員会では、この例で示したような「全員が」・「～できる」というのが、協同学習におけるめあてのポイントになると考えました。(この稿つづく)